

2020年度 放射線部門QIデータ報告

全国病院経営管理学会
診療放射線業務委員会 委員
医療法人社団 哺育会
桜ヶ丘中央病院 放射線科
泉谷 智

放射線部門クオリティインディケータ(QI)

2013年4月 当委員会において研究を開始

2014年8月 第1回QIデータ収集を開始

2015年3月 報告会において第1回QIデータの報告

2015年4月 協力施設へQI集計結果の送付



2020年9月 第7回QIデータ収集を開始

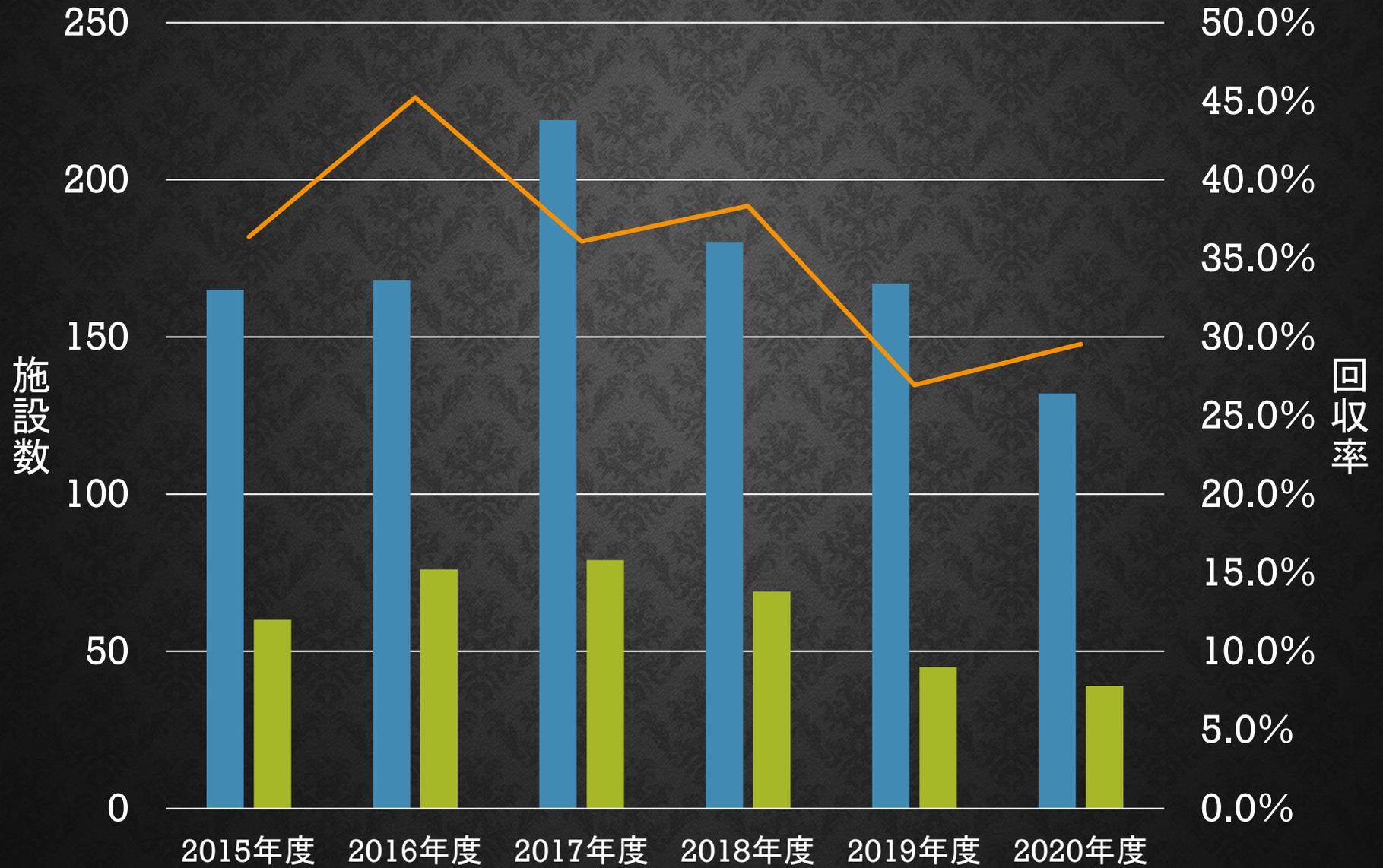
2020年度、QI収集状況

会員・非会員を問わず依頼

依頼施設数132 回答施設数39

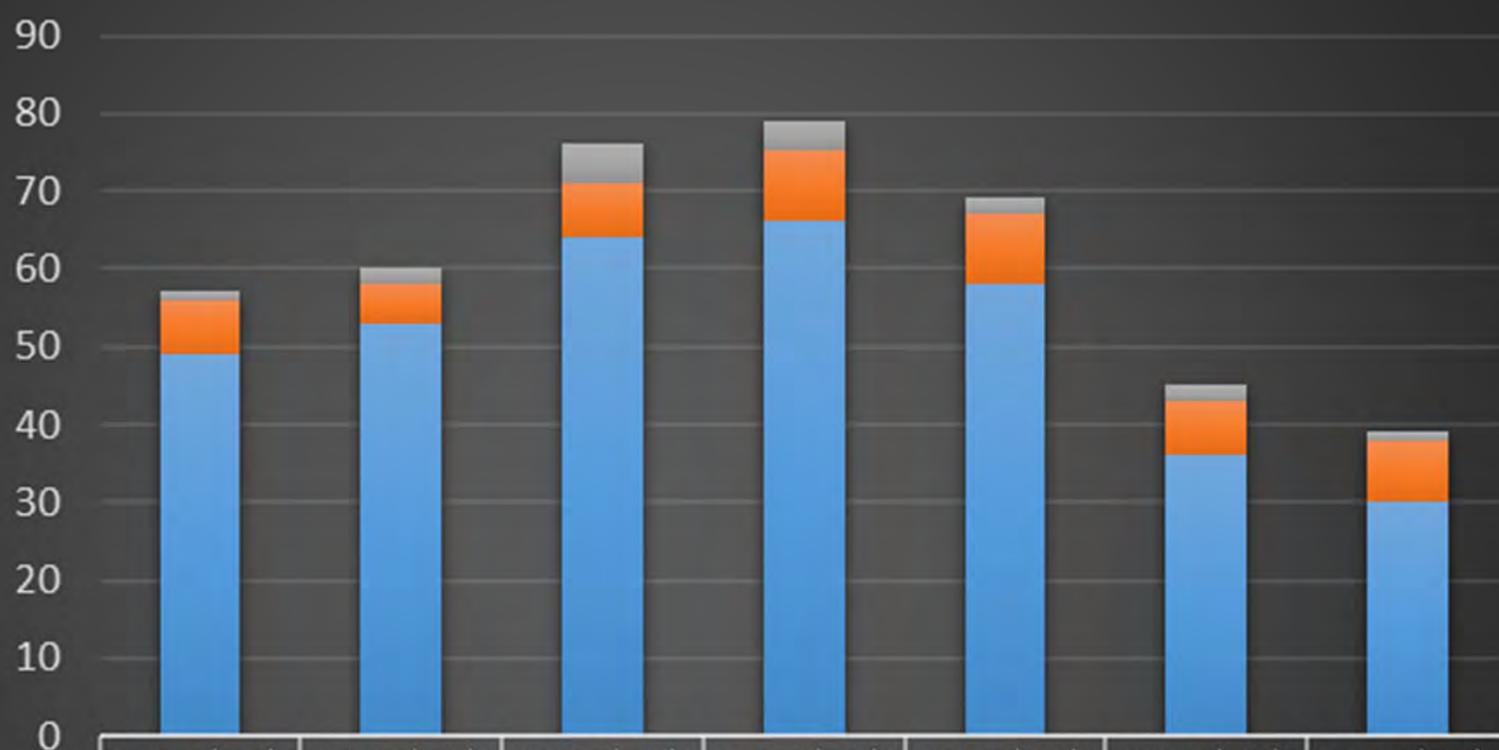
回収率 29.5%

施設数推移



■ 依頼施設数 ■ 回答施設数 — 回収率

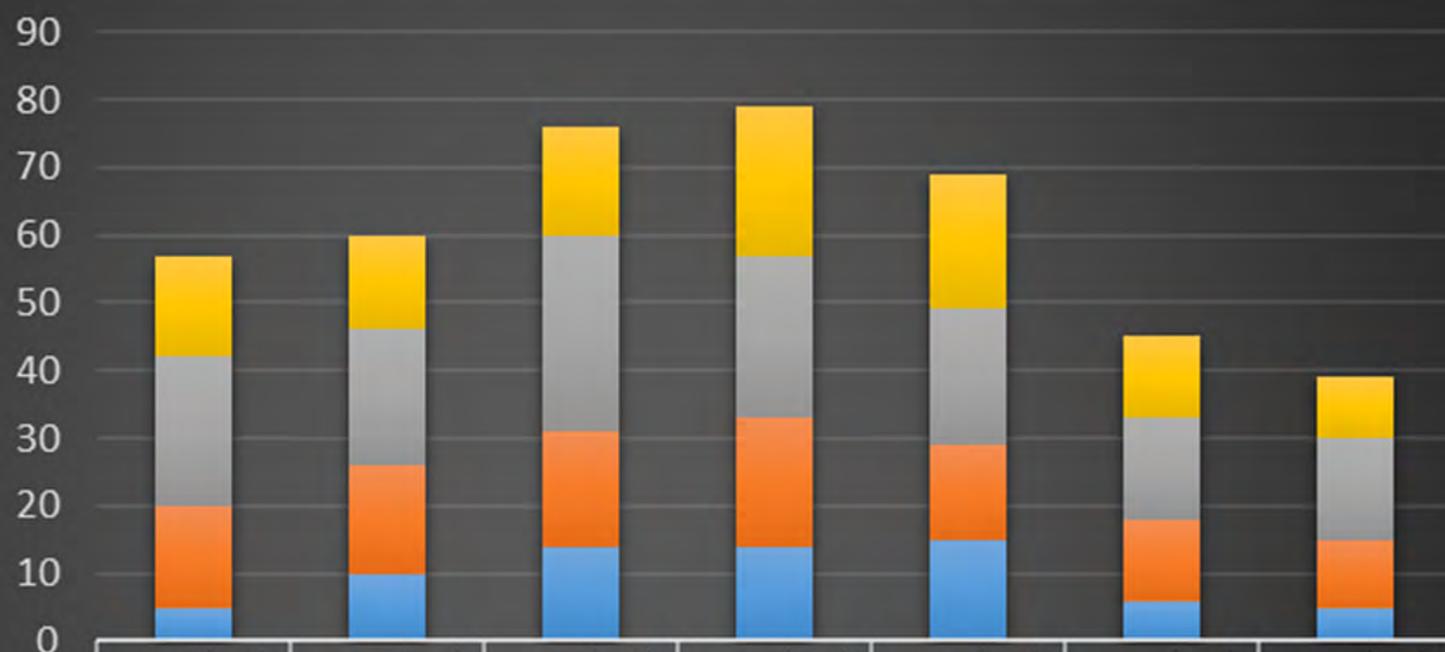
業態別施設数



	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
■その他	1	2	5	4	2	2	1
■療養・回復期	7	5	7	9	9	7	8
■一般	49	53	64	66	58	36	30

■一般 ■療養・回復期 ■その他

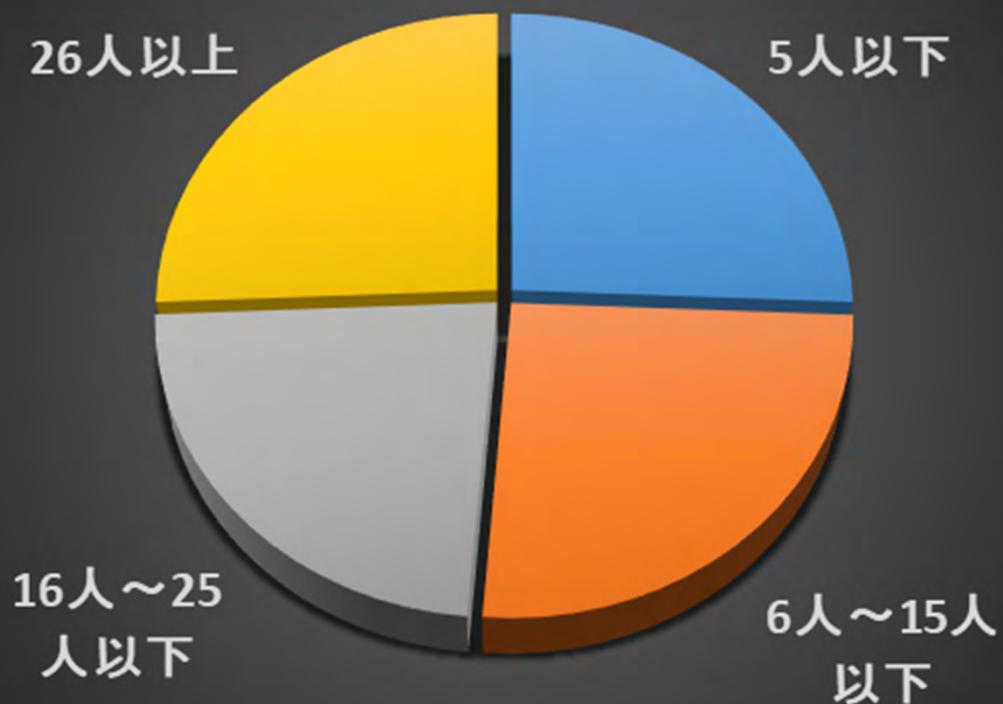
病床数別施設数



	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
■ 500床以上	15	14	16	22	20	12	9
■ 200~500床未満	22	20	29	24	20	15	15
■ 100~200床未満	15	16	17	19	14	12	10
■ 100床未満	5	10	14	14	15	6	5

■ 100床未満 ■ 100~200床未満 ■ 200~500床未満 ■ 500床以上

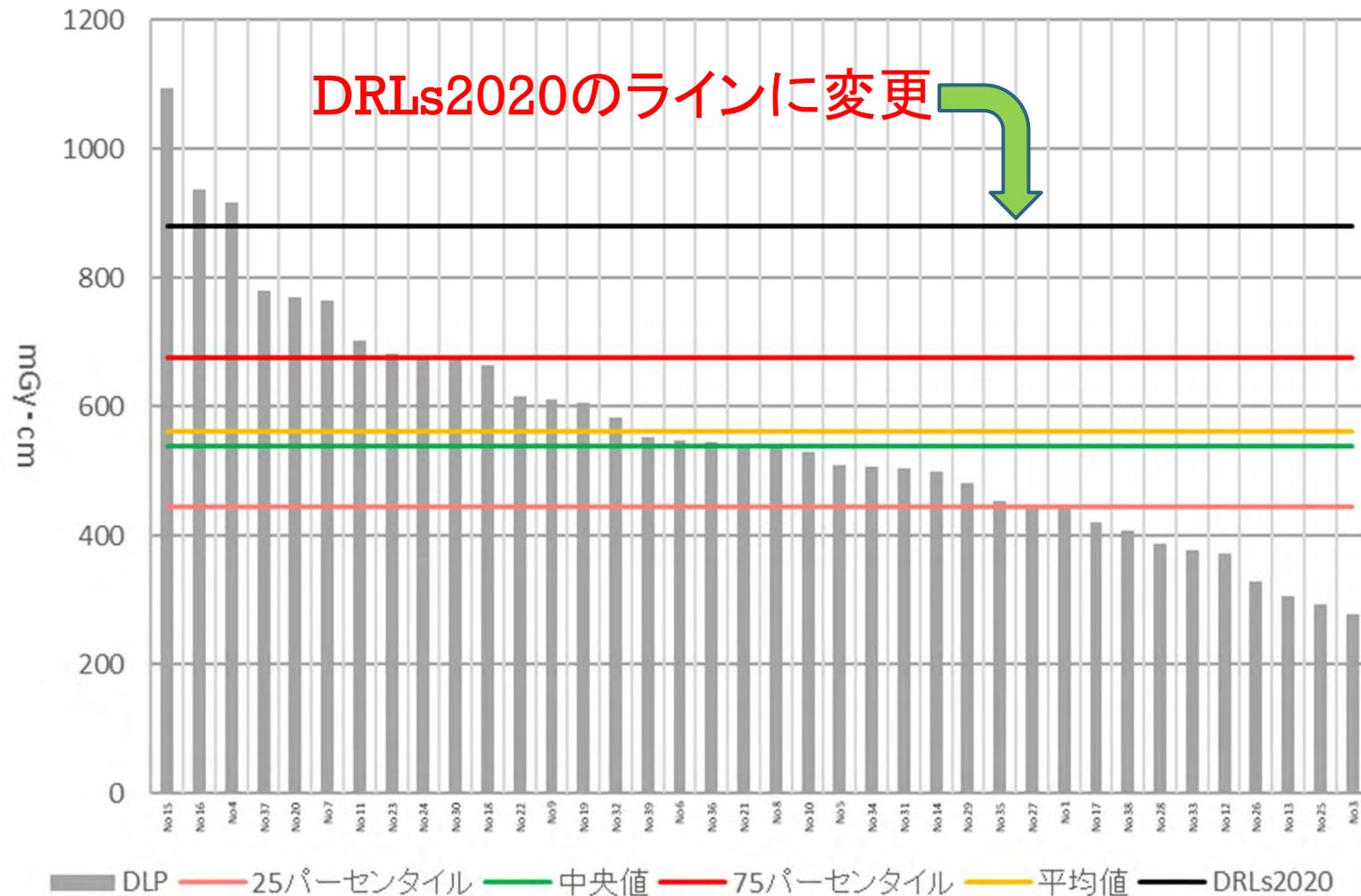
技師数



技師数	施設数
5人以下	10
6人~15人以下	10
16人~25人以下	9
26人以上	10
総計	39

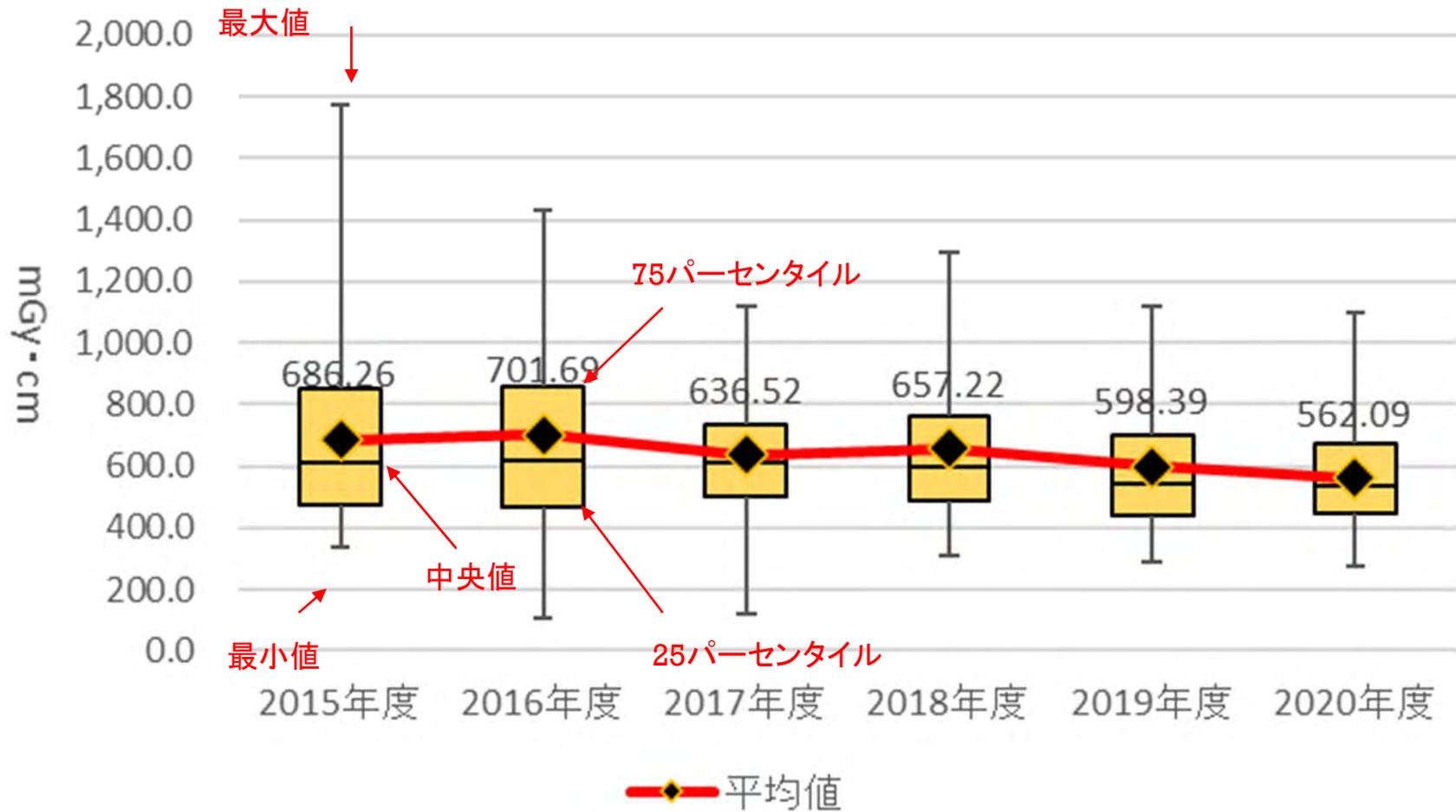
データの統計方法

上腹部～骨盤DLP (mGy・cm)



データの統計方法

上腹部～骨盤DLP推移(全施設)



2019年度QI項目

- ① 機器稼働件数
- ② 後発造影剤使用率
- ③ 造影検査率
- ④ 再撮影率
- ⑤ 各学会、研究会等の発表件数、参加数
- ⑥ 脳血管障害患者における頭部CTまたはMRI検査施行までに要した時間
- ⑦ 急性心筋梗塞の患者で症状発症後12時間以内に来院し、来院からバルーンカテーテルによる責任病変の再開通までの時間が90分以内の患者の割合
- ⑧ 検査待ち時間
- ⑨ インシデント・アクシデントレポート報告数
- ⑩ 放射線業務従事者の被ばく線量
- ⑪ 離職率
- ⑫ 有給休暇取得率
- ⑬ 月平均時間外労働時間
- ⑭ CTにおける線量指標
- ⑮ 一般撮影における線量指標

2020年度QIの修正項目

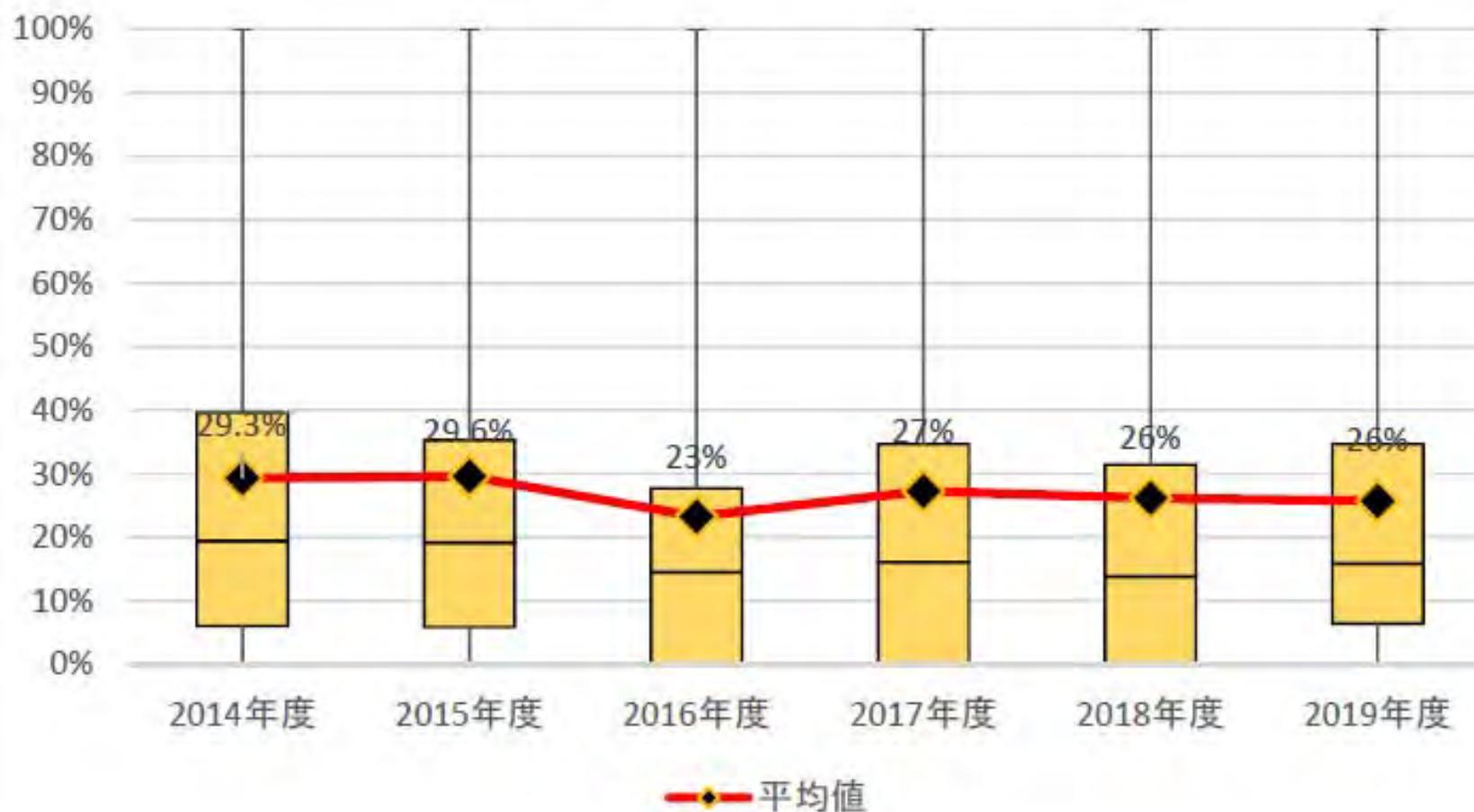
② 後発造影剤使用率 → 削除

指標の説明

医療費が年々増加していく中で、ジェネリック造影剤を使用することは医療費を減少させる上で必要であり、これは同時に患者負担を軽減し、サービス性を高めようと努力をしているかを推察する指標となる。また、ジェネリック造影剤を使用することで支出を削減可能である。従ってジェネリック造影剤使用率は経済効果を推察する指標ともなる。

後発品100%の施設と使い分けている施設で二分しており、データに変化がない

CT後発造影剤使用率推移(全施設)



2020年度QIの修正項目

追加項目

③読影レポートの既読率

修正項目

⑭ CTにおける線量指標

逐次近似法使用検査のデータを分離
標準体格を50～70kgに変更

⑮ 一般撮影における線量指標

CRとFPDを分けずに収集

2020年度QI項目

- ① 機器稼働件数
- ② 造影検査率
- ③ 読影レポートの既読率
- ④ 再撮影率
- ⑤ 各学会、研究会等の発表件数、参加数
- ⑥ 脳血管障害患者における頭部CTまたはMRI検査施行までに要した時間
- ⑦ 急性心筋梗塞の患者で症状発症後12時間以内に来院し、来院からバルーンカテーテルによる責任病変の再開通までの時間が90分以内の患者の割合
- ⑧ 検査待ち時間
- ⑨ インシデント・アクシデントレポート報告数
- ⑩ 放射線業務従事者の被ばく線量
- ⑪ 離職率
- ⑫ 有給休暇取得率
- ⑬ 月平均時間外労働時間
- ⑭ CTにおける線量指標
- ⑮ 一般撮影における線量指標

外れ値、異常値の取り扱いについて

- $\pm 2\sigma \sim 3\sigma$ を超えるもの
(グラフを見て、他と大きく離れた値)
- 問い合わせで確認が取れないもの

⑭ CT検査における線量指標

指標の説明

自施設のCT線量指標を確認し、水準を比較することは被ばく線量を低減・最適化を行う上で重要である。

対象

標準体格(50～70Kg)の成人の頭部単純ルーチン、胸部1相、胸部～骨盤1相、上腹部～骨盤1相

肝臓ダイナミック(胸部や骨盤を含まない)、冠動脈(体重50～70Kg)を対象とする。

算出方法

"分子:対象部位毎のCTDIvolおよびDLPの総和分母:対象部位の検査件数収集数:部位毎に10件以上の直近データ"

対象部位ごとの全ての検査に加え、**逐次近似法利用検査に限定した線量も集計**

装置コンソール上に表示またはdose reportとして記録されたCTDIvolおよびDLPの平均値。(主に使用している機種において、部位毎に10件以上のデータから平均値を算出。)